

(令和6年3月6日 午後1時42分 開始)

○議員(河野 禎明君) 傍聴席のたくさんの皆様、お疲れさまです。国民年金党をつくりたいと思っている河野禎明です。

昨日の同僚議員の質問に関心しました。副町長、教育長、出張はどこに行ったんですか、私費で行ったんですか、公費で行ったんですか、誰に会ったんですか、何を話したんですか。厳しい質問の連続でした。前の町長は、ニュージーランドに大金を使って行きました。一つも成果が出ていません。職員が働いているときに、ゴルフの練習を一生懸命していました。これに対して、私たちは何にも厳しい質問をしませんでした。私たちは、だらしのない議員でした。これから反省します。

今から通告に従って一般質問をしたいと思います。

1番目、小学校生徒数の減少について。2番目、サーフィンセンターの改修計画について。3番目、公共施設の利用について。

下の質問席にて、1番目から詳しく質問したいと思います。

最初に、新年度の多賀小学校、これは山本小もらしいですけど、どうも複式学級が発生するというのを保護者から聞きました。これに対して、教育行政はどのような対応を準備されましたか。お願いします。

○教育課長(三好 益夫君) ただいまの御質問にお答えいたします。

本年度も、多賀小学校、山本小学校は、複式学級が存在しております。こちらに関しましては、別に先生を雇い入れをして、複式学級の解消を今年度は行っております。

以上でございます。

○議員(河野 禎明君) それほど見事に対応させていただくとは思いませんでした。これで、保護者が安心されると思います。

今、私が心配していることは、コロナが発生してから、子供の出生数が80名ぐらいです、町内が。これ考えると、この子供たちが小学校に入るときに、どんどんどんどん大きくなっていくわけですが、大体、年間に町内が80名の子供しか生まれていないとすると、小学校が480名、そういうふうに、中学校になったときは、80名掛ける3の240名、こういうことが将来的にとっても心配されます。

そこで、私は、今回は、町長が病気のことで町長に対する質問が少ないので、3項目しかありませんが、ちょっと具体的にこれを質問したいと思います。

子供が少なくなるというのは、もうはっきりしているわけです。じゃあ何するかです。これ、生徒数を増やせばいいわけです。じゃあ増やすにはどうしたらいいのか。知恵を出し合えばいいわけです。私は、そういう知恵をまだあまり聞いていないんです。

私はこう考えました。テレビで「SASUKE」という番組があります。前、議会でも言ったことがあります。前の町長のときに言いました。全く相手にされませんでした。SASUKEというのが今、世界的に広がっているんです。もし、今度の川南の中学校のようにSASUKEの

施設を造ったとします。そこに何千万かかかったとしても、これは、県外から、毎日SASUKEの練習ができる人としたら、50名くらいの生徒が来ます。これは、今、北浦にはSASUKEのスターの長野というのいるんです。その子供が中学生です。この前、去年の暮れの番組で、第1ステージを中学生が2名もクリアしたんです。もう既にSASUKEは中学生が一生懸命になっているんです。

毎日、川南の中学校のSASUKE部で練習できるとしたら、全国から子供が来る。これやれば、この生徒数の減少やら解決できると思いますが。今、町長がいないから、副町長、どんな思いますか。（「教育委員会じゃないんですか」と呼ぶ者あり）

○副町長（河野 秀二君） そのアイデアで、正直驚いていますけど、町長が復帰しましたら、また相談してみます。

以上のお返事でよろしいでしょうか。現時点では。

○議長（河野 浩一君） 禎明君、今の質問は通告書でなかったから。だから、ちょっと通告書どおりにやってください。

○議員（河野 禎明君） それでは、2番目のサーフィンセンターの改修計画についてお伺いします。

今、役場内でサーフィンセンター改修計画は、チームがつくられて構想を練っていると聞いていますが。今、進捗状況はどのような状況でしょうか。

○産業推進課長（河野 賢二君） ただいまの御質問にお答えしたいと思います。

進捗状況はということだったんですが、この間も議員の方々には、庁舎内のプロジェクトチームで考えた案というのを提案をさせていただきました。その後は、今現在、サーフィンセンターと伊倉浜自然公園全体の見直しということで、今、伊倉浜公園の中にちょっと私有地が入ってまして、そちらの取得を進めているところでございます。それが取得ができてから、基本計画というものの策定に入りたいと思っております。

以上でございます。

○議員（河野 禎明君） ぜひ、その私有地を取得して、このサーフィンセンターは川南を変えることができる私は大変なチャンスだと思います。私は、去年の10月、11月、毎日砂浜に行きました。それで、いろいろなところからサーファーが来てくれました。あそこでテントも張って、外国人、韓国人、フランス人、アメリカ人、外国の方もテントを張って、いろいろ話を聞きました。

そこで、せっかくこれをやる以上は、町内には、移住者でサーファーで来られた方もいます。町内でサーフィンする人もいます。その方たちの、やはりいろいろな意見を持っています。ああした方がいい、こうした方がいい、その意見を聴く場を用意してもらえませんか。お願いします。

○産業推進課長（河野 賢二君） ただいまの御質問にお答えしたいと思います。

今後、その計画をつくっていく段階で、どのような方法になるかは分かりませんが、検討委員会なのか、例えば全体から意見を聴くパブリックコメントなのか、そういったことを含めて、様々なところから意見を聴いていきたいと思っておりますので、議員の言われるようなサーフィンをされる方とか、そういった方からの意見も当然入れていこうと考えております。

以上でございます。

○議員（河野 禎明君） このサーフィンセンターというのは、やはりどう考えてもキャンプ場が必要になるということが想定されます。もう県外から来るわけですから、休みが3日あったら、やっぱり宿泊ということが大事ですから、キャンプ場整備ということがセットでないとおかしいと思うんです。

ということになると、どういうキャンプ場が喜ばれるか、ここも大事なところですよ。やはり、今、たしか温水シャワーがないと思うんです。やはりキャンプ場ですから、日向のお倉ヶ浜のそばでは、ちゃんとサーフボードのレンタル用もあります。それからウェットスーツですかね、そういうのも貸出しもあるんでしょうね。いろいろ用意されています。そういうことも必要じゃないかと思えます。

当然、キャンプ道具のテントの貸出し、例えばバーベキューしたければバーベキューもセットの貸出しとか、そういうことも考えられると思うんですけど、どうでしょうか。

○産業推進課長（河野 賢二君） ただいまの御質問にお答えしたいと思います。

確かに、最近キャンプをされる方は非常に多くて、キャンプ場というのが必要じゃないかという考えはもちろんあるかと思えますけど。それ以外のリース品につきましても、その計画の中でこういったものを整備していくのかというのは考えていくことなのかなと思っております。

以上でございます。

○議員（河野 禎明君） 建設的な意見を頂いて、これはいいのができるなと思えます。

そうすると、やはり中学生のサーフィン部ということも可能性が出てきます。そして、キャンプ場ができると、冬場のキャンプ場というのは、ちょっとお客さんが少なくなるんです。そこで、今流行りのサウナということも造れるといいなと思えます。

また、サーフィン体験教室ですかね、これをちょっと考えてみました。これをやって、男女の出会いの場、これも発生するっじゃないかと思えます。

そして、あそこでキャンプをしたら、面白いことが起きるんです。お父さんはサーフィンをします。また、小さい子供さんとかお母さんがサーフィンするとは限らないんです。その小さい子供さんとお母さん、中学校のそばにSASUKEがあったら、SASUKEに行きたいと言います。となると、県外の方は、川南のキャンプ場、サーフィンセンターのキャンプ場は、サーフィンができるぞ、あそこにSASUKEもできるところがあるぞと。これだったら、川南という町は全国でも魅力のある町になるんじゃないかと思えます。

通告を外れるといけないので、ここはちょっと、いろいろ意見を聞くと、サーフィンセンターの下にカフェを造ってくれんかという、土曜、日曜、祭日限定、そういう意見もありました。それもいいなと思えました。

サーフィンセンターを終わります。

次は、3番目。老人福祉館が護国神社のそばにあるんです。これが、取り壊されるんじゃないかという心配をしている声があるんですけど、どうでしょうか。

○福祉課長（渡邊 寿美君） ただいまの御質問につきお答え申し上げます。

おっしゃいました老人福祉館は、地域のコミュニティーの拠点として昭和47年度より町民の方たちに利用されてきております。しかしながら、既に耐用年数を経過して安全性の確保が担保できないということから、川南町公共施設等総合計画の中で用途廃止としたものです。

ですので、さらにこの施設を利用するという事は、危険が伴いますので、今のところは考えておりません。

以上です。

○議員（河野 禎明君） 危険な建物にちょっと該当するという事は、私達も考えていませんでした。耐震構造とかすれば、長寿命化みたいなので使えるのかと思いましたが。それができないとなると、今ちょっと、私が、もしできるなら老人福祉館を利用して、川南というのは落下傘部隊という、全国でも数少ないことが、落下傘部隊の発祥の地と言われているんです。

それを、やはりいろいろな資料があると思うんです。写真もあるだろうし、いろいろな、落下傘部隊のとき使われたものもあると思うんです。それをどこかに展示して、小中学生が来て、川南の歴史を学べる歴史資料館、そういうものがあつたらいいなと思います。

しかし、本当に危険な建物であるとしたら、壊して、またあそこに、今、鉄筋では高いから、木造でいいから、歴史資料館みたいなのをぜひ考えていただけたらと思いますが。これは、副町長では駄目でしょうか。

○副町長（河野 秀二君） 今ここで即答できるものではありませんので、申し訳ありませんが、返事できません。

○議員（河野 禎明君） 町長がいないので、残念ですが、これで質問を終わりたいと思います。

（ 午後 2 時00分 終了 ）